

# 日本人学生のためのベトナム語 文法教育における諸問題<sup>1</sup>

春日 淳

## 要旨

ベトナム語の言語的特徴を類型論的に整理したうえで、日本人学生を対象としたベトナム語文法教育の中で重要となる、主題卓立性、pro-drop、類別詞の使用という日本語と類似の特徴と、語順、アスペクトという日本語と大きく相異なる特徴を取り上げ、文法教育への貢献を視野に、日本語と対照させながら検討する。  
キーワード：ベトナム語、日本語、主題卓立性、pro-drop、類別詞、語順、アスペクト、文法教育、説明、用語

## 1. はじめに

ある言語の教育には、その言語の言語学的な分析の成果が基礎となる。もちろん、言語学的な記述がそのまま言語教育に活かせるわけではない。けれども、その言語内部の言語的事象を精密に分析し、適切な用語を用いて記述し、さらに当該言語のもつ言語的特徴を学習者の母語と対照させておくことは、言語教育にも役立つに違いない。本稿の目的は、ベトナム語を学習する日本人の学生が、ベト

<sup>1</sup> 本稿は、平成 26 年度佐野学園研究助成金「短期在外研究」の助成を受けた研究「フランスにおけるベトナム教育」の成果である。フランスの受け入れ機関である inalco (Institut National des Langues et Civilisations Orientales: 国立東洋言語文化研究所) と、そのベトナム語学科主任 Danh Thành Do-Hurinville 先生 ( : 当時、現フランシュールコンテ大学ブザンソン校 Université de Franche-Comté, Besançon 教授)、Đoàn Cẩm Thi 先生をはじめ、inalco ベトナム語学科のベトナム語教育スタッフの先生方と、エクス・マルセイユ大学(Aix-Marseille Université)の Nguyễn Phương Ngọc 先生に心から感謝したい。殊に、Do-Hurinville 先生には、授業見学とご本人との意見交換を通じて、ネイティブとしてフランス人にベトナム語を教える立場から、ベトナム語の文法教育について数々の貴重なご意見とアドバイスをいただいた。心からお礼申し上げたい。

ナム語の文法をより深く理解するための文法教育への貢献を視野に、ベトナム語の言語的特徴のうちの、文法教育上重要となるものをいくつか取り上げ、日本語と対照させながら検討することである。

本稿の構成は以下の通りである。第2節では、ベトナム語の言語的特徴を類型論的な視点から整理する。第3節では、ベトナム語文法を日本人学生に教える際に重要となるいくつかの項目について、日本語と対照させながら検討する。第4節ではまとめを行う。

## 2. ベトナム語の類型論的特徴

ベトナム語は、語が形態変化をしない、いわゆる孤立語であり、一音節が一形態素をなし、同時に基本的な一語をなす。多音節の語も、基本的には一音節語の結合によってできあがる。音韻面からは、各音節に語彙的声調をもつ声調言語で、標準語の位置づけにある北部方言では、声調は6つある。

まず、基本的な言語特徴について、峰岸(2012:204)にあるタイ語の類型上の特徴を参照して、整理してみたい<sup>2</sup>。特徴とともに、それぞれの特徴を含む用例を適宜示す<sup>3</sup>。

<1>. 基本語順: 2項をとる場合 SVO (AVP)、1項をとる場合 SV、修飾関係は被修飾語である主要部 (head) に修飾語が後置される (NA)。

- (1) Nam ăn chuối. (人名+食べる+バナナ「ナムはバナナを食べる」)
- (2) Nam mệt. (人名+疲れる「ナムは疲れている」)
- (3) nhà to (家+大きい「大きい家」)

<2>. 動詞の多くは2項動詞あるいは1項動詞であるが、3項をとるものもある。

- (4) に3項動詞の例を挙げる。

<sup>2</sup> 以下<1>~<8>に見るように、ベトナム語とタイ語とは多くの点で類似した言語的特徴を持つ。また、<9>の類別詞をもつこと、<10>のアスペクト言語であることもタイ語と共通している。

<sup>3</sup> ベトナム語の例を提示する場合、表記はベトナム語正書法を用いる。語のグロスや訳文の付け方は、紙幅の関係で、その場所に適当な形式を用い、統一された形式を用いていない。

(4) Nam gửi Mai một bức thư. (人名+送る+人名+1(数詞)+類別詞+手紙  
「ナムはマイに手紙を1通送る」)

<3>. 主語卓立言語: topic prominent language であり、文頭の名詞句あるいは副詞句が、文全体の主題をなす。

(5) Mai tóc dài. (人名+髪+長い「マイは髪が長い」)

(6) Ở Hà Nội có nhiều hồ. (~に+ハノイ+ある+多くの+湖「ハノイには湖がたくさんある」)

<4>. 主語、目的語の「省略」: いわゆる pro-drop 言語であり、談話、会話において、指示対象(referent)が特定可能な場合、主語や目的語などのいわゆる「必須要素」が明示されない<sup>4</sup>。

<5>. 形容詞は用言類: 形容詞はヨーロッパの言語のように名詞類には含まれず、動詞類の下位分類である。以下の例は、(7)が平叙文、(8)が否定文、(9)が Yes-No 疑問文で、(a)が動詞述語文、(b)が形容詞述語文、(c)が名詞述語文である。

(7)

a. Nam đọc sách. (人名+読む+本「ナムは本を読む」)

b. Nam cao. (人名+高い「ナムは背が高い」)

c. Nam là sinh viên. (人名+Copula+学生「ナムは学生だ」)

(8)

a. Nam không đọc sách. (人名+[否定]+読む+本「ナムは本を読まない」)

b. Nam không cao. (人名+[否定]+高い「ナムは背が高くない」)

c. Nam không phải là sinh viên. (人名+[否定]+正しい+Copula+学生「ナムは学生ではない」)

(9)

a. Nam có đọc sách không? (人名+ある+読む+本+[否定]「ナムは本を読みますか」)

---

<sup>4</sup> pro-drop の例は、3.1.2 節の例(3)(4)を参照されたい。

b. Nam có cao không? (人名+ある+高い+[否定]「ナムは背が高いですか」)

c. Nam có phải là sinh viên không? (人名+ある+正しい+Copula+学生+[否定]「ナムは学生ですか」)

ベトナム語の形容詞が動詞類の下位分類であるとしても、動詞と形容詞の区別は困難であることが多い<sup>5</sup>。両者ともに、(7a) (7b)に見るように、文中で主語との間に copula を介さず述語となり、(8a) (8b)に見るように、否定辞 không を前置して否定され、(9a) (9b)に見るように、同型の Yes-No 疑問文をとる、など共通した特徴を多くもつ。これらは(7c) (8c) (9c)の名詞述語文との対照で見ると、動詞類を名詞類と区別する特徴でもある。

<6>. 単音節性：音節は語彙的な声調の弁別を伴い、語は一音節を基本とする。

<7>. 孤立語性：派生接辞などはなく、語形変化も一切ない典型的な孤立語である。

<8>. 動詞連続：serial verb construction あるいは verb serialization と呼ばれる、名詞(句)を挟んで、多くの動詞が、語形変化も、連続の標識となるような語の介在もなしに連続する構造をもつ<sup>6</sup>。(10)は文学作品からの例である。動詞を太字で示す。

(10) *Vài gia đình bày thức ăn trên bải có **quây quần dùng bữa chiều**.* (二三の+家族+並べる(bày)+料理+上+芝生+集まる(quây quần)+使う(dùng)+夕食「数家族が料理を芝生の上に並べ、それを囲んで、夕食をとっている」)(*Biển* p.103)

以上、峰岸(2012:204)に挙げられたタイ語の特徴をベトナム語で確認する形で見えてきたが、さらに、以下のような特徴を挙げておきたい。

<9>. 類別詞の使用：ベトナム語は、名詞が表す事物の属性(形状や性質)などに基づいたカテゴリーに応じて決まる類別詞という品詞をもつ。類別詞は、数詞

<sup>5</sup> 上田(2014)によると、東南アジア諸言語の中でタイ語やベトナム語と類型的に類似の特徴を多く持つクメール語(カンボジア語)でも、動詞と形容詞(さらに副詞)を分類することは困難であるようである。

<sup>6</sup> ベトナム語の動詞連続について、詳しくは三上(2009, 2015)を参照されたい。

とともに現れ（数詞＋類別詞＋名詞の語順）、数詞とともに事物を数える単位ともなる。このように、類別詞は日本語の助数詞と類似の機能をもつが、その類別詞の区別に現れる名詞のカテゴリー分類は日本語と異なるところが多い。

(11) *một cái bàn / mũ / quần* (1 (数詞)＋類別詞＋机/帽子/ズボン「机1脚/帽子1つ/ズボン1本」)

(12) *một con bò / cua / ong* (1 (数詞)＋類別詞＋ウシ/カニ/ハチ「ウシ1頭/カニ1匹/ハチ1匹」)

上の(11)の中の類別詞 *cái* は無生物（動かないもの）のカテゴリーに入る事物を表す名詞と共起し、(12)の *con* は生物（動くもの）のカテゴリーに入る事物を表す名詞と共起する。

<10>. アスペクト言語：ベトナム語はいくつかのアスペクト辞によってアスペクトを明示し区別するアスペクト言語であり、テンスは明示されない。

動詞に前置されるアスペクト辞には、次のようなものがある<sup>7</sup>。 *đã* [已然] 「すでに...した」、 *chưa* [未発・未完了] 「まだ...しない・していない」、 *sẽ* [未然] 「やがて...する」、 *sắp* [近後] 「まもなく...する」、 *đang* [進行] 「...している」、 *tiếp tục* [継続] 「まだ...している」、 *vừa* [近前] 「...したばかり」、 *mới* [近前] 「...したばかり」。また、動詞（句）に後置されるアスペクト辞に *hoàn thành* [完了] 「すでに...している」がある。

### 3. 文法項目の検討

本節では、第2節の<1>～<10>で見たベトナム語の特徴のうち、大枠において日本語と類似している特徴と異なっている特徴をいくつか取り上げて検討した

<sup>7</sup> アスペクト辞の後ろに[ ]に入れて付けたアスペクトについての日本語の用語は筆者のもので、暫定的であり、今後の検討を要する。*chưa* の[未発・未完了]は、動詞（句）で表される事象が「まだ起こらない」意味の[未発] (*chưa đi* 「まだ行かない」)と「まだ完了していない」意味の[未完了] (*chưa đến* 「まだ到着していない」)の、両方の機能をもつという意味である。*sẽ* については、これまで筆者は[未来]としてきたが、本稿ではテンスを想起させるこの用語を避け、[未然]とした。また、「」内に入れた日本語訳は、理解しやすさを考慮した便宜的なものにすぎない。

い。文法特徴が日本語と類似しているかどうかということが、日本人学生に対するベトナム語の文法教育においても重要になると考えられるからである。

### 3. 1 日本語と類似している特徴

第2節の<1>～<10>で見たベトナム語の特徴のうち、大枠において日本語と類似しているのは次の特徴である。(I) 主題卓立性、(II) pro-drop、(III) 類別詞。

以下、これら3つの特報について詳しく検討したい。

#### 3. 1. 1 主題卓立性

(1)

a. Mai tóc dài. (人名+髪+長い「マイは髪が長い」) (第2節(5)に既出)

b. マイは髪が長い。

(1a)では、人名である Mai が主題 (topic) となり、Mai のもつ属性について tóc dài と解説 (comment) している。これは、典型的な topic-comment の構造であるが、(1a)の訳文にあたる日本語の(1b)でも同じ構造を示す。ただし、日本語の(1b)では、助詞「は」が「マイ」が topic であることを示し、「が」が「髪」の主語としての文法役割を示すというように、助詞の付与が義務的に起こる。ベトナム語の場合、主題化を示す標識語の thì を Mai と tóc の間に入れることは可能であるが、必須の要素ではない。tóc dài (髪+長い) という主述関係を表すのに、copula が入らないのは、第2節<5>で述べたとおり、dài「長い」が動詞類であり、名詞類ではないからである。

(2)

a. Ở Hà Nội có nhiều hồ. (～に+ハノイ+ある+多くの+湖「ハノイには湖がたくさんある」) (第2節(6)に既出)

b. ハノイには湖がたくさんある。

(2a)は、Ở Hà Nội「ハノイには」が topic、có nhiều hồ「湖がたくさんある」が comment

という構造である。一方日本語の(2b)は、助詞「は」によって「ハノイに」が topic であることが示され、この topic について「湖がたくさんある」という comment が続くと考えれば、ベトナム語の(2a)と同様の情報構造をもつとみなすことができる。このような類似はベトナム語と日本語との間に頻繁にあり、日本人学生にベトナム語と日本語が topic-comment という構造をもつ点でよく似ているという知識を与えることによって、学生の文法理解に何らかの有益な示唆ができると考えられる。ただ、(2a)の topic 内部の語順、comment 内部の語順が(2b)の日本語と大きく異なることを見ても、主題卓立性という比較的大きな枠組みの中の類似が、実践面で正確な文を作るということにそのまま通じるとは考えにくい。

### 3. 1. 2 pro-drop

本節では、ベトナム語の会話文とその日本語の訳文とを比べることによって、ベトナム語における pro-drop の現象を検討してみたい。下の(3)(4)中の記号 [φ] は、太字にした目的語（を指示する代名詞等）が、その位置で pro-drop され、明示されていないことを表す。

(下の(3)(4)の会話は、小説中の挿話の中で幽霊の笛売りの青年が少女と話している場面。Đàn Bà p.138 より。日本語の訳文は筆者)

(3)

a. Sắp tan chợ rồi. Em cho anh **chiếc lược của em** nhé! Nếu không, em cho anh mượn[φ], phiên sau anh sẽ trả[φ]. (もうすぐ+終わる+市+[完了] 君+与える+僕+類別詞+櫛+～の+君+文末詞 もし+[否定] 君+与える+僕+借りる 類別詞+後+僕+[未然]+返す)

b. もうすぐ市が終わる。僕に**君の櫛**をおくれ。だめなら、僕に[φ]貸しておくれ、次の市の日に[φ]返すから。

(4)

a. Nếu anh thích [φ]thì anh cầm [φ]đi! Mẹ có hỏi em sẽ nói dối là đánh rơi [φ]ở cầu

ao ròì. (もし+あなた+好む+[接続]+あなた+つかむ+[命令] 母+ある+尋ねる+私+[未然]+言う+嘘+Copula+打つ+落ちる+〜で+橋+池+[完了])

b. あなたが[ $\phi$ ]気に入ったならもって行って。母が尋ねたら、[ $\phi$ ]池の橋で落としたって嘘を言うわ。

(3a) (3b)および(4a) (4b)の対照に見るように、ベトナム語も日本語も数か所で目的語である *chiếc lược của em*「君の櫛」あるいはそれを示す代名詞相当の語句(ベトナム語なら *chiếc đó* (類別詞+その「それ」) や日本語なら「それ(を)」など)を *pro-drop* して明示していない。このように、談話、会話において文脈が支えとなって指示対象 (*referent*) が特定可能な場合、西洋言語なら必須要素である主語や目的語が明示されない現象は、ベトナム語でも日本語でも頻繁に起こる。ベトナム語の場合、その本来もつ文脈依存性の強さが反映している現象の一つだと考えられる。

ただ、ベトナム語の場合、主語の *pro-drop* は日本語のように頻繁には起こらない。下のベトナム語の(5a) (5a')とその日本語訳の(5b) (5b')を見てほしい。

(5) (学生が先生に尋ねる場面。主語を太字で強調。 *pro-drop* された主語を[ $\phi$ ]で表す)

a. Xin lỗi, **thầy** là thầy Nam, phải không? (謝る 先生+Copula+先生+人名+正しい+[否定]「失礼ですが、先生はナム先生ですか」)

a'. \*Xin lỗi, [ $\phi$ ] là thầy Nam, phải không?

b. 失礼ですが、先生はナム先生ですか。

b'. 失礼ですが、[ $\phi$ ]ナム先生ですか。

ベトナム語において(5a)の主語 *thầy* は必須の要素であり、(5a')のようにこれを省略することはできない。しかし、日本語においては(5b')のように *pro-drop* 可能である。

さらに、ベトナム語の場合、文中のある位置に文脈から特定可能な指示対象が明示される場合とされない場合とで、表現に違いが生じる場合がある。例えば、



動詞 *chào* 「挨拶する」を用いる挨拶文では、挨拶する対象を明示するのが通常の表現<sup>8</sup>であるが、挨拶する主体は明示される場合とされない場合があり、それを明示することによって丁寧さのレベルを上げる、という場合である。次の(6)の例を見てほしい。

(6) (Aは学生、BはAを教えている先生。AからB (A→B)あるいはBからA (B→A)への挨拶)<sup>9</sup>

a. A→B : *Em chào thầy.* (私+挨拶する+先生「こんにちは/さようなら」)

a'. A→B: *Chào thầy.* (挨拶する+先生「こんにちは/さようなら」)

b. B→A: ??*Thầy chào em.* (先生+挨拶する+君「こんにちは/さようなら」)

b'. B→A: *Chào em.* (挨拶する+君「こんにちは/さようなら」)

(6a)ではA(学生)は挨拶をする主体である自分自身を *em* 「私」と称し、これが構造上主語の位置に明示され、「私+挨拶する+先生」という構造の文となっている。(6a')のように挨拶の主体である *em* を明示しない表現も可能である。けれども、この場合は(6a)に比べ、丁寧さのレベルは下がり、先生と学生の関係(信頼、親しさなど)が十分に築かれていない場合、ぞんざいでぶっきらぼうな印象を与えることもある。一方B(先生)の発話で(6b')のように主語の位置に何も明示されていない表現は、先生から学生に対する挨拶表現として適格である。これはBの発話において主語が *pro-drop* されているわけではなく、挨拶の主体を明示しないのが目上から目下(あるいは対等な関係の)の人間に対して挨拶する際の通常の表現であるからである。もし先生から学生への挨拶で(6b)のように挨拶の主体である自分自身 *thầy* を明示すると、上下関係の規範に反しているため、奇妙な表現となる。

<sup>8</sup> 挨拶の対象を明示しない *Xin chào*. 「こんにちは」という表現は、丁寧さを含まない表現で、もっぱら気軽な挨拶の際に用いられるものである。

<sup>9</sup> *em* に「私」と「君」の2種類のグロスが付いているのは、この語がもともと「弟・妹(年下の兄弟)」を意味し、呼称に転用されて、学生(生徒)と先生の間呼称として、学生の自称、先生から学生を呼ぶときの対称の両方に用いられるからである。また、先生は学生に対し自称として *thầy* を用いる。

(6)は挨拶文で、話し手(挨拶をする側)が主語となる場合を見たが、下の(7)は依頼の文で、聞き手(依頼を受ける側)が、主語となる例である。この場合も、主語を明示する方が、それをしないよりも丁寧な表現になる。(7)では、主語の位置に、依頼を受ける側であり動作の主体である *anh*「あなた」が明示された(7a)の方が明示されない(7b)よりも丁寧さのレベルが高い<sup>10</sup>。

(7)

a. *Anh cho tôi mượn cái này.* (あなた+与える+私+借りる+類別詞+この「これを貸してください」)

b. *Cho tôi mượn cái này.* (与える+私+借りる+類別詞+この「これを貸してちょうだい」)

### 3. 1. 3 類別詞

ベトナム語の類別詞と日本語の助数詞において、際立った類似点は、両者が名詞のカテゴリー分類に伴って決まっているということと、もう一つは、数詞とともに用いられ、事物を数える際の単位となるということである<sup>11</sup>。

(8) *một cái ghế / áo / đồng hồ / xe đạp* (1(数詞)+類別詞+イス/服/時計/自転車「イス1脚/服1着/時計1個/自転車1台」)

(9)

a. *một con ngựa / mèo / chim / cá / tôm / kiền* (1(数詞)+類別詞+ウマ/ネコ/鳥/魚/エビ/アリ「ウマ1頭/ネコ1匹/鳥1羽/魚1匹/エビ1匹/アリ1匹」)

b. *một con quay / dao / tàu / tem / sông / đường* (1(数詞)+類別詞+独楽/包丁/船/

<sup>10</sup> (7a)に依頼を表す語句 *xin* や *làm ơn* を付加し、*Xin anh cho tôi mượn cái này.*や *Anh làm ơn cho tôi mượn cái này.*のようにして、さらに丁寧さのレベルを上げることは可能である。しかし、(7a)(7b)のように通常の叙述文のままでも文脈の支えがあれば依頼の表現となる。

<sup>11</sup> 三上(2006)では、類別詞の使用において数量表現を伴う場合と伴わない場合に分け、数量表現を伴わない場合についてさらに下位分類して、類別詞を伴った名詞と伴わない名詞とを対照させ詳しく論じている。その上で「一般的な意味を表す名詞に対して、類別詞を伴った名詞は個別的な意味を表す」(p.198)とし、類別詞の個別化機能を指摘している。

切手/川/道「独楽1個/包丁1本/船1隻/切手1枚/川1本/道1本」

(10) *một đôi giày / đũa* (1 (数詞) + 類別詞 + 靴/箸「靴1足/箸1膳」)

上の(8)～(10)に見るように、類別詞あるいは助数詞と結合するベトナム語と日本語の名詞のカテゴリー分類は異なることが多い。ベトナム語の類別詞 *cái* は、無生物(動かないもの)というカテゴリーの事物を表す名詞と結合するが、ベトナム語の *cái* が付く名詞のグループに相当する日本語のカテゴリー分類は、その助数詞の使用からわかるとおりベトナム語よりも複雑である。さらに、*con* は(9a)の例に見るように、生物(動くもの)というカテゴリーに対応する一方で、(9b)のようなこれにあたらないうカテゴリーの名詞にも付く<sup>12</sup>。また、日本語にも一対で用いられるものを表す名詞に付く助数詞があるように、ベトナム語にも(10)の例のような同様の類別詞がある。ただ、これも助数詞に表れているように、名詞のカテゴリー分類は日本語の方がより細かい。

類別詞のもつ、事物を数える際の単位としての用法は、日本語の助数詞のそれによく似ているため、日本語母語話者にとって直感的にわかりやすい。しかし、どの類別詞がどの名詞と共起するかということについては、(8)～(10)の例に見るように、ベトナム語の名詞と日本語の名詞のカテゴリー化が異なるため、予測することはできない。結局、それぞれの名詞についてどの類別詞をとるかを個別に覚えることになる。また、類別詞と名詞の組み合わせから一つの仮説(あるいは解釈)として導き出されるベトナム語の名詞のカテゴリー分類は、学習者のベトナム語の名詞に対する知識を深めることには役立っても、実践的な使用につい

<sup>12</sup> (9b)の名詞も、「生物(動くもの)」と同様の属性を連想させるため *con* という類別詞をとる、という説明がなされることがある。*quay*「独楽」はその回転している状態から、*dao*「包丁」はその使用している際の動きから、*tàu*「船」は水上に浮かんで人を乗せて移動する状態から、*sông*「川」は自ら動きをもって流れている状態から、「生物(動くもの)」を連想させ、そのために *con* という類別詞をとる、というような説明である。さらに *đường*「道」も川と同じような形態から「川」に対する連想と同じような連想が働き *con* をとる、と説明できるかもしれない。しかし、*tem*「切手」(フランス語 *timbre* に由来する借用語)がなぜ *con* をとるのか、「薄っぺらいもの」を表す名詞に付く類別詞 *tấm* や「四角く平たいもの」を表す名詞に付く類別詞 *bức* があるのに、なぜそれらをとらないのか、という疑問が残る。

ては、類別詞と名詞の組み合わせの正しい記憶と使用の練習あるいは経験によることになる。

数詞と類別詞、名詞の組み合わせについては、日本語にあるような数量詞遊離の現象はない。(8)~(10)に見るように、常に数詞+類別詞+名詞の語順が用いられる。したがって、下の(11)のベトナム語文を日本語に訳す際、ベトナム語の語順に影響されて(12a)のような訳がしばしば起こるが、両言語の表現の相異(数量詞遊離のある/なし)を説明したうえで、(12b)のようなより自然な訳を付けられるように学習者に注意を促す必要がある。

(11) Trong tủ lạnh có ba quả trứng. (中+冷蔵庫+ある+3(数詞)+類別詞+卵  
「冷蔵庫の中に卵が3つある」)

(12)

- a. ?冷蔵庫の中に3つの卵がある。
- b. 冷蔵庫(の中)に卵が3つある。

### 3.2 日本語と異なる特徴

本節では、ベトナム語と日本語との間で大きく異なる特徴の中から、(I)語順と(II)アスペクトについて検討する。

#### 3.2.1 語順

語順に関しては、ベトナム語がSVO(AVP)型の言語であり、日本語がSOV(APV)型の言語であることによって、両言語の文中の語順が大きく異なることは言うまでもない。ただ、3.1.1節でも述べたように、様々なタイプの文については、その情報構造の視点から見ていくと、ベトナム語と日本語との間に類似した点も多く見られる。まずそれらについて検討したい。

(13)

- a. Hào chân dài. (人名+足+長い「ハオは足が長い」)

b. ハオは足が長い。

(13a) (13b)は topic (Hào および「ハオ」)、comment という構造の点でも、語順の点でもよく似た文である。

(14)

a. Bia thì tôi không thích lắm. (ビール+[主題化]+私+[否定]+好む+とても「ビールは私はあまり好きではない」)

b. ビールはあまり好きではない。

(14a) (14b)はいずれも目的語 bia、「ビール」が主題化されて文頭に置かれている例である。(14a)で、主題化の標識語 thì でマークされる bia と同様に、(14b)では「ビール」が助詞「は」によってマークされていて、両言語とも全体として topic-comment の類似した構造と語順をもつ。

(15)

a. Huy năm nay 40 tuổi. (人名+今年+40+年齢「フイは今年 40 歳だ」)

b. フイは今年 40 歳だ。

(15a) (15b)とも Huy、「フイ」という人物を topic にしてその年齢についての comment を続けた文と考えてよいが、comment 部分の語順も両言語とも同じである<sup>13</sup>。

次に、述部においてベトナム語と日本語の語順が大きく異なる例として、いわゆる「痛覚の表現」について見る。

(16)

a. Nam (bị) đau đầu. (人名 (+[被害]) +痛む+頭「ナムは頭が痛い」)

b. ナムは頭が痛い。

(16a)と(16b)に見るように、「頭が痛い」という事象を表す表現の中の語順が、ベトナム語と日本語では逆である。また、ベトナム語の文では、ネガティブな状

<sup>13</sup> ベトナム語については năm nay「今年」を文頭に置いた Năm nay Huy 40 tuổi. という語順も可能である。この場合も「今年フイは 40 歳だ」という日本語の語順と同様である。

態を表現上明示する場合、主語に後置して[被害]の標識語 *bi* も現れる。ただ、これらのことが(16a)のような文(痛覚の表現)の習得を困難にするということにはつながらない。痛覚の表現では、一般に「痛みを感じる主体(+[被害])+動詞+痛む部位」という文<sup>14</sup>となるという説明を学習者に対して行い、痛む部位や動詞を変えて繰り返し練習することによって正しい文は比較的容易に習得できる。

### 3. 2. 2 アスペクト

ベトナム語のアスペクト辞に関しては、Nguyễn Văn Huệ et al. (eds.) (2003) (以下 NVH (2003) と略記) 中の記述と、Do-Hurinville (2006, 2007)、Nguyen Thuc (2013) の研究を適宜参照する。また、本節で取り上げるアスペクト辞は、*đã* [已然]、*sẽ* [未然]、および *sắp* [近後] に限る。

個々のアスペクト辞について検討する前に、まず、アスペクト辞の生起に関する基本的な事柄を確認しておきたい。

アスペクト辞の中で、*đã* と *sẽ* については、文脈または時の副詞句によって文中の動詞で表される動作と「基準時点」<sup>15</sup>との関係が明らかな場合、アスペクト辞は通常明示されない、という特徴があり、これが日本語との比較の上では重要となる。

(17)

- a. Hôm qua Nam xem phim. (昨日+人名+見る+映画「昨日ナムは映画を観た」)  
 a'. ? Hôm qua Nam *đã* xem phim. (昨日+人名+[已然]+見る+映画「昨日すでにナムは映画を観た」)
- b. Hôm qua Nam xem bộ phim đó. (昨日+人名+見る+類別詞+映画+その「昨日

<sup>14</sup> このタイプの文は *đau* 「痛む」、*nhức* 「一カ所がきりきり痛む」などの痛みを表す動詞以外にも、「痺れる」、*sưng* 「腫れる」、*mỏi* 「疲れる・だるい」などの動詞でも用いられる。

<sup>15</sup> Do-Hurinville (2006) では、アスペクト辞は発話時点 (*le moment de l'énonciation*) や「選択された参照点」 (*un point de référence choisi*) との関係においてこそ、それぞれのもつ (種々の) 意味が表現されることを指摘している。「選択された参照点」は、動作と関係をもつ「基準時点」と同義である。

ナムはその映画を観た」)

b'. Hôm qua Nam **đã** xem bộ phim đó. (昨日+人名+[已然]+見る+類別詞+映画+その「昨日すでにナムはその映画を観た」)

上の例のうち、アスペクト辞 **đã** が明示されない(17a)(17b)はきわめて自然な表現であるが、**đã** が明示された (17a')は、観ることになっていた映画があったという文脈の中で、それを昨日すでに観た、などの意味でない限り、単に昨日という時点でなにかの映画を観たという事象の叙述としては不自然な表現となる。けれども、(17b')のように、**bộ phim đó** 「その映画」という形で対象となる映画が特定されていれば、文の容認度は上がる。(17b')は、**đã** の使用によって、基準時点である昨日にある映画を観るという動作がすでに行われたこと、すなわち動作の已然性が明示されている文であるといえることができる。

(18)

a. Ngày mai Nam **đến** nhà Mai. (明日+人名+到着する+家+人名「明日ナムはマイの家に行く」)

b. Ngày mai Nam **sẽ** **đến** nhà Mai. (明日+人名+[未然]+到着する+家+人名「明日ナムはマイの家に行く」)

(18a)(18b)はいずれも適格な文である。ただ、[未然]のアスペクト辞 **sẽ** が使用された(18b)は、明日という時点における動作の実現の確実性、さらに言えば、動作の実現に対する話し手の確信を明示した表現である。さらに(19)のように、話し手と文中の動作主が一致する場合、**sẽ** は自らの動作の実現に対する話し手の意志・決意などを表す。

(19) (勉強を怠けている生徒が先生に呼ばれて話をしている場面で、生徒が言う)  
Em xin lỗi cô! Em **sẽ cố gắng**. Em **sẽ không lười nữa**. (私+謝る+先生 私+[未然]+頑張る 私+[未然]+[否定]+怠ける+さらに「すみません。頑張ります。もう怠けません」)(NVH 2003:342 の例)

このように **sẽ** にはアスペクト表示の機能の他に、モダリティ表示の機能もある。

以下 *đã*、*sẽ* および *sắp* の順にさらに詳しく検討する。

### 3. 2. 2. 1 *đã*

下の(20)～(22)の例は、NVH (2003) からのものである。アスペクト辞 *đã* を太字で示す。

(20) (妻がきれいな帽子を見て買いたいと言い、夫が妻に言う)

Mũ à? Tuần trước em **đã** mua một cái rồi mà! (帽子+[疑問] 先週+君+[已然]+買う+1(数詞)+類別詞+[完了]+文末詞「帽子かい?先週君はすでに一つ買ったじゃないか」) (NVH 2003 :110)

(21) (ナム氏は以前は運転手をしていたが、今年 80 歳で運転手を続けられない)

Ông Nam **đã** già, không lái xe được nữa. (ナム氏+[已然]+年老いた [否定]+運転する+車+[可能]+さらに「ナム氏はすでに年老いて、もう車を運転できない」) (NVH2003 :110)

(22) (ジョンはまもなく帰国する。彼は、故郷が懐かしくて言う)

Giờ này tuần sau tôi **đã** ở nhà rồi. (時+この+来週+私+[已然]+居る+家+[完了]「来週の今頃は家にいる」) (NVH 2003 :112)

NVH (2003) は、アスペクト辞 *đã* に関して「副詞、ある時点(通常、この時点は、(特定な時点によって) マークされていない場合には、現在の時点と理解される)よりも前に生じた、(あるいは) 始まった事象を表す」(訳筆者) (p.112) と述べている。

Nguyen Thuc (2013) では、*đã* と時間副詞、アスペクト辞 *tiếp* [継続]、*đã* [完了] との共起を継続動詞 ở 「いる」 および結果動詞 đến 「到着する」を用いて詳しく分析している。その上で、*đã* が、基準となる時が示されていない場合はテンスの助動詞として過去を表し、時間副詞によって基準となる時が示されている場合はテンスとしての役割を持たず、アスペクトについては、結果動作の場合は完了のアスペクトを表すが、継続動作の場合はそのようなことは稀である、という観



察を通じて、次のような結論を得ている。「*đã* はアスペクト-テンスの助動詞 (*un coverbe aspectuo-temporel*)<sup>16</sup> と見なすのが都合がよく、発話表現上に時間の基準点がない場合、過去と完了を表すが、後者 (完了) は動詞の意味から推論できない」(訳筆者) (p.100)。しかし、*đã* にテンスとアスペクトの両方の機能を認める説明は合理的ではない。Nguyen Thuc (2013) は *đã* の過去のテンス、完了のアスペクトは *bây giờ* 「今」や *ngày mai* 「明日」のような現在や未来の時間副詞と共に共起するとき、「中和される」(*neutralisée*) と述べている (p.98) が、むしろ、*đã* がこのような時間副詞とも、過去の時間副詞とも共起することは、それがテンス ([過去]) ではなく、アスペクト ([既然]) をもつことを示していると考えられる<sup>17</sup>。

### 3. 2. 2. 2 *sẽ* と *sắp*

Nguyen Thuc (2013) は、*sẽ* について、それが過去や現在の時間副詞と共に共起せず、ただ未来の時間副詞と共に共起するという事実を指摘し、*sẽ* は特定のアスペクト的価値をもたず、未来の表示の機能のみをもち、テンスの助動詞 (*un coverbe de temps*) である、としている (p.105)。しかし、(23)～(25)の例のように、*sẽ* は未来の表示機能ばかりではない。

(23) Ở nhiệt độ 100°C thì nước *sẽ* bốc hơi. (～で+温度+100°C+[接続]+水+*sẽ*+立ち上る+蒸気「100°Cで水は沸騰する」)(NVH 2003 :342)

(24) Nếu có tiền, tôi *sẽ* đi du lịch khắp thế giới. (もし+ある+金 私+*sẽ*+行く+旅行する+至る所+世界「もし金があったら、私は世界中を旅行するだろう」)(NVH 2003 :344)

(25) Theo dự định của Nam, đám cưới của anh và Lan *sẽ* diễn ra sau khi anh tốt nghiệp,

<sup>16</sup> フランス語の *coverbe* を「助動詞」と訳するのは問題があるかもしれない。その機能からいえばむしろ「辞」と捉えられるものだからである。

<sup>17</sup> (20)～(22)の例を参照されたい。

nếu như Lan không đổi ý. (従う+予定+〜の+人名 結婚式+〜の+彼+〜と+人名+**sẽ**+行われる+後+時+彼+卒業する もし+〜のように+人名+[否定]+翻意する「もしランの気が変わらなければ、ナムの卒業後、彼とランの結婚式が行われたろう」) (NVH 2003 :344)

上の(23)～(25)はいずれも、ある条件の下での結果を表す節に **sẽ** が用いられ、(23)では普遍の真理を、(24)では、現在における非現実の条件の下に行われるであろう非現実の動作を、(25)では、過去における非現実の条件の下に行われたであろう非現実の動作を表している。

Do-Hurinville (2007) は、アスペクト辞のうちの **sáp** と **sẽ** について詳細な分析を行い、**sáp** が「選択された参照点」(un point de référence choisi) (それが現在の場合は、発話時点 (le moment de l'énonciation)) に強く拘束されているために、(単文においては) **bây giờ** 「今」などの現在を表す時間副詞を除いて、時間副詞と共起しないのに対し、**sẽ** が「参照点」と切り離されているために、時間副詞と共起することを指摘している (p.55)。この指摘は重要であり、下の(26a) (26b)の違いを学習者に示す際にも参考となる<sup>18</sup>。

(26) (例文は a, b の順に Do-Hurinville (2007) p.43 の(14),および p.47 の(18a)から)

a. \*Ngày mai tôi **sáp** đi Lyon. (明日+私+**sáp**+行く+リヨン「\*明日私はまもなくリヨンに行く」)

b. Ngày mai, tôi **sẽ** đi Lyon. (明日+私+**sẽ**+行く+リヨン「明日私はリヨンに行く」)

#### 4. まとめ

第3節までに、ベトナム語文法の特徴のうちのいくつかを日本語と対照させて検討した。ベトナム語は、言語の構造上の違いにもかかわらず、主題卓立性、

<sup>18</sup> 日本語の「まもなく」と時間副詞の共起についても同じような制限があることを(26a)の訳のような例で示し、**sáp**の使用についての学習者の理解の助けとすることも有効であると思われる。

pro-drop、類別詞の使用という日本語と類似の特徴を持つ。また、語順やアスペクト表示においては日本語と大きく異なる。ただ、類型論的に見て大枠において類似している特徴についても、詳細に検討すると、日本語と異なる部分も多い。また、語順については、基本語順は大きく異なるが、情報構造においては類似の特徴をもち、両言語間でよく似た文や表現がある、ということもある。日本語の母語話者である日本人の学生に、ベトナム語と日本語の文法上の類似点と相違点を、その例とともにわかりやすく示すことは、ベトナム語文法教育において有効であろう。ただ、問題はベトナム語文法の特徴の説明の仕方と用語法であり、学習者に納得いく説明が、適切な用語とともになされてはじめて学習者にとって有益なものとなることは言うまでもない。類別詞の使用に現れる名詞のカテゴリー化やアスペクトなど、まず記述の段階で詳細に検討すべきことは多い。また、文法用語についても、アスペクト辞の機能についての用語をはじめとして、言語事象を的確に表すだけでなく、理解しやすい用語かどうかという観点からも、今後検討すべきものが多い。

## 参考文献

- Do-Hurinville, Danh Thành (2006) Étude de quelques coverbes, de l'ordre temporel, et du discours rapporté dans la littérature et dans la presse vietnamiennes Étude contrastive avec le français. *Bulletin de la Société de linguistique de Paris*, t. CI, fasc. 1 : 369-416.
- Do-Hurinville, Danh Thành (2007) Étude sémantique et syntaxique de sắp et sễ en vietnamien. *La linguistique*, Vol.43:37-56.
- 三上直光 (2006) 「ベトナム語類別詞再考」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第 37 号 :183-200.
- 三上直光 (2009) 「ベトナム語動詞連続の一側面—日本語テ形接続から見る—」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第 40 号 :259-274.

三上直光 (2015) 「ベトナム語動詞連続の意味的特徴について」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第46号:441-456.

峰岸真琴 (2012) 「アジアの視座からの言語学を目指して: タイ語の視点から」  
峰岸真琴・稗田 乃・早津恵美子・川口裕司 (編) 『コーパスに基づく言語学教育研究報告9 フィールド調査、言語コーパス、言語情報学IV』グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」東京外国語大学 (TUFS) 大学院総合国際学研究院, 203-214.

Nguyen Thuc, Thanh Tin (2013) De quelques coverbes de temporalité en vietnamien. *La linguistique*, Vol.49:95-106.

Nguyễn Văn Huệ, Nguyễn Văn Phổ, Nguyễn Thị Ngọc Hân, Đinh Lư Giang, Nguyễn Hoàng Trung, Trần Thủy Vịnh, Nguyễn Thị Hoàng Yến, Lê Thị Minh Hằng, Huỳnh Công Hiến & Nguyễn Hoài Thu Ba (eds.) (2003) *Từ Điển Ngữ Pháp Tiếng Việt Cơ Bản - Dictionary of Basic Vietnamese Grammar*. Đại Học Quốc Gia TP.Hồ Chí Minh, Trường Đại Học Khoa Học Xã Hội và Nhân Văn, TP.Hồ Chí Minh: Nhà Xuất Bản Đại Học Quốc Gia TP Hồ Chí Minh.

上田広美 (2014) 「クメール語の形容詞文について」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第45号:159-173.

## 例文の引用文献

Nguyễn Ngọc Tư (2015) *Biển của Mỗi Người*. Hà Nội: Nhà Xuất Bản Kim Đồng. (略号 *Biển*)

Y Ban (2013) *Đàn Bà Xấu Thì Không Có Quà*. Hà Nội: Nhà Xuất Bản Văn Học. (略号 *Đàn Bà*)